

農村景観に強い思いを有する方々が集まり、「農村景観応援団」が結成されましたのでご紹介します。  
農村景観に関してご相談等ありましたら、事務局までご連絡下さい。

## 農村景観応援団の結成について

日本の農村景観は、地域の自然と人々の生業（なりわい）や生活との調和の中で、長い年月を経て築き上げられた私たち日本人の心のふるさとであり、国民的な財産です。しかし、その美しい農村景観は、農業の担い手が少なくなり、農村において新たな生活スタイルや技術が普及する中で急速に失われつつあります。

美しい農村景観を次世代に残していくためには、そこに暮らす人もそこを訪れる人も農村景観の意味や価値の理解を深め、力を合わせて地域での活動を展開していくことが何よりも大切です。また、その保全には多様な専門的知見を活用した総合的な取組も求められます。

このため、このたび分野を超えて農村景観に強い思いを有する者が集まり、美しい日本の景観の大切さを多くの方に伝え、「美の里」づくりを広く呼びかけていくべく、ここに「農村景観応援団」を結成いたしました。私たちは、それぞれの持つ専門的な知識や経験を結集して、農村景観の価値や活用方法などを示しつつ、志を同じくする専門家の方々の参加も得ながら、美しい農村景観づくりを応援していきます。またこれらの活動を通じて、多くの方々と一緒に活力があり誇りに満ちたまちづくり・むらづくりを広げていくこととします。

なお、当面は事務を農林水産省にお願いして、私たちの活動を進めることとします。

### ● 予定している活動

- (1) 美しい農村景観を大切にする国民意識の醸成  
農村景観の価値等を伝えるパンフレット・ホームページの作成、各種機会を捉えた農村景観の考え方の紹介等
- (2) 美しい日本の「農」の風景を都市住民が育てる運動の支援
- (3) 美しい農村景観づくりに向けた地域活動の支援  
農村景観の保全や活用に関する現地検討会の開催、応援団員の派遣等
- (4) 美しい農村景観づくりを進める関係団体への提言等  
行政に対する提言、現地活動に関する助言や情報提供等

### ● メンバー・専門分野

金田 章裕（きんだ あきひろ）  
京都大学大学院  
文学研究科教授  
[人文地理、歴史地理]



藤本 信義（ふじもと のぶよし）  
宇都宮大学  
工学部教授  
[建築計画、地域計画]



生源寺 眞一（しょうげんじ しんいち）  
東京大学大学院  
農学生命科学研究科教授  
[農業経済]



宮原 育子（みやはら いくこ）  
宮城大学  
事業構想学部助教授  
[地域資源を活かした観光振興]

進士 五十八（しんじ いそや）  
東京農業大学地域環境科学部教授  
[景観政策、ルーラル・ランド  
スケープデザイン]



山本 徳司（やまもと とくじ）  
独立行政法人農業工学研究所  
集落計画研究室室長  
[住民参加による地域づくり]



田口 敦子（たぐち あつこ）  
多摩美術大学  
美術学部教授  
[グラフィックデザイン、環境色彩]



横張 真（よこはり まこと）  
筑波大学大学院  
システム情報工学研究科教授  
[緑地環境計画]

野中 和雄（のなか かずお）  
財団法人競馬・農林水産情報衛星  
通信機構（グリーンチャンネル）会長  
[農山村振興]



[農村景観応援団事務局]  
農林水産省農村振興局企画部農村政策課  
電話：03-3502-5946

# 平成17年度「立ち上がる農山漁村※」30事例が選定されました！

本誌第17号で募集しました、平成17年度「立ち上がる農山漁村」の30事例が下記のとおり選定されましたので、ご紹介します。多数のご応募をいただき、ありがとうございました。

本年度「立ち上がる農山漁村」では、知的財産権を活用した農山漁村の振興をテーマにシンポジウムやマーケティング講習会の開催等を行いました。今後も、「地域自ら考え行動する」意欲あふれた取組みを推進してまいりますので、よろしくお願いいたします。

立ち上がる農山漁村は、ホームページ（<http://www.maff.go.jp/tatiagaru/newpage9.htm>）にて活動を紹介しています。ぜひご覧下さい。

平成17年度第1回有識者会議が平成17年12月8日、首相官邸大会議室において開催され、有識者会議委員の他、安倍内閣官房長官、中川農林水産大臣、中馬地域再生担当大臣が出席し、農林水産業を核とした、自律的で経営感覚豊かな農山漁村づくりの先駆的事例を「立ち上がる農山漁村」として30事例（次ページ）が選定されました。

冒頭には安倍内閣官房長官から、小泉内閣の基本方針の下、地域の潜在力を引き出す「立ち上がる農山漁村」の役割はますます大きくなっている。地域が自ら考え、がんばっていくとすばらしいものができる、都市にとっても農村がいきいきしていることで生活が豊かになる、と挨拶がありました。

また、中川農林水産大臣から、委員が選定の基準とした省エネ、食育、本物や輸出、健康といったキーワードは私や小泉総理の政治の基本理念とも合致している。日本の農産物は日本の高級志向のお客さまだけでなく世界の日本ブランドとなっている。今日はスタートということでさらに飛躍していくよう微力を尽くしたい、とコメントがありました。



## ※「立ち上がる農山漁村」とは

農山漁村では過疎化や高齢化で活力が低下している地域もありますが、その一方で農林水産業を核として自分たちの地域で力を出し、活発な取組みを行い、地域を元気にしている人たちがいます。そういった事例を首相官邸で開催される有識者会議で「立ち上がる農山漁村」として選定し、「地域自ら考え行動する」意欲あふれた取組みを推進するために全国に発信・奨励しています。

### 選定の視点

- 農村振興に熱い思いを持ち、独自の経営感覚で推進している事業。
- 地域資源に注目し、大きく活かしている活動。
- 今までの常識にとらわれないユニークな戦略。
- 地域の経済を元気にし、雇用の創造などに貢献している取組み。

### 有識者会議委員メンバー

- アン・マクドナルド 委員  
エッセイスト
- 今村 司 委員  
日本テレビ編成局チーフプロデューサー
- 小泉 武夫 委員 東京農業大学教授
- 白石 真澄 委員 東洋大学助教授
- 長岡 杏子 委員 TBSアナウンサー
- 永島 敏行 委員 俳優
- 丹羽 宇一郎 委員  
伊藤忠商事取締役会長
- 林 良博 委員 東京大学教授
- 三國 清三 委員  
オテル・ドゥ・ミクニ オーナーシェフ

## 平成17年度「立ち上がる農山漁村」30事例一覧

No	都道府県	市町村	分野	事業者名	取り組みについて
1	北海道	せたな町	他産業の農業 参入	(有)ヒルトップファーム	建設会社の農業参入による安全・安心のめん羊飼育とレストラン経営
2	北海道	沼田町	バイオマス・ リサイクル	北いぶき農業協同組合(沼田支所)	雪を利用したまち・特産品(雪中米など)づくり ～克雷から利雪・親雪へ～
3	北海道	置戸町	交流	置戸町	オケクラフト生産・作り手養成活動
4	北海道	興部町	食	ノースブレインファーム(株)	「大地も草も牛も人も健康」をテーマに生産から販売まで付加価値を付けた酪農で一頭一雇用
5	岩手県	花巻市	女性・若者	花巻農業協同組合, 母ちゃんハウスだあすこ	母ちゃんパワー農産物直売所で地域農業の活性化
6	秋田県	横手市	女性・若者	浅舞(あさまい) 婦人漬物研究会	女性グループが手作りの漬物を秋田から全国へ ～商標登録、品質確保の努力でブランド確立～
7	山形県	小国町	交流	小国町	地域資源を活用した山村総合産業の創出
8	栃木県	茂木町	バイオマス・ リサイクル	茂木町	家畜排泄物や町内生ごみ、落葉などの堆肥化による環境保全型農業の推進
9	埼玉県	本庄市	知的財産	本庄PF研究会	知的財産権(特許、商標)を活用した情報付き農産物の創出
10	千葉県	鴨川市	交流	NPO法人 大山千枚田保存会	千枚田保全活動を通じた都市農村交流
11	千葉県	大栄町	輸出	(株)生産者連合デコボン	日本産農産物海外宅配の取組み
12	神奈川県	小田原市	食	小田原市農林畜産物特産品開発推進協議会	行政・消費者・生産者が一体となった農林水産業の振興
13	福井県	小浜市	食	小浜市	「御食国」若狭おばまの伝統、「食」を中心に据えた「食のまちづくり」
14	長野県	小谷村	交流	中谷郷が元気になる会	地域資源最大限活用による都市農村交流
15	岐阜県	恵那市	食	(株)里の菓工房	超特選恵那栗の拡大
16	愛知県	豊田市	バイオマス・ リサイクル	豊田・加茂 菜の花プロジェクト	食品副産物と遊休地を利用して農業の活性化を図る
17	三重県	志摩市	知的財産	あのりふく協議会	地域資源の天然トラフグを活かした地域ブランドの創出
18	滋賀県	甲賀市	女性・若者	(有)くのいち本舗	古代黒米を使った特産品作り
19	兵庫県	丹波市	IT	加古川流域森林資源活用検討協議会	家づくりで森づくり 立木販売システム
20	和歌山県	田辺市	女性・若者	中辺路(なかへち)町森林組合	「緑の雇用」と森林の環境整備で地域おこし
21	和歌山県	北山村	IT	北山村	地域特産柑橘「じゃばら」の地域ブランド化と「筏師」の伝統を活かしたむらおこし
22	島根県	浜田市	知的財産	浜田市水産物ブランド化戦略会議	「水産ブランドどんちっち」-利己的から利他的に-
23	島根県	江津市	食	農業生産法人(有)桜江町桑茶生産組合	遊休資源「桑」を生かした農業の6次産業化
24	香川県	内海町	知的財産	(株)ヤマヒサ	島産オリーブ振興特区と特許を活用した地域振興
25	愛媛県	松前町	他産業の農業 参入	(有)あくり(金亀建設株)	地域に根ざした循環型農業の展開と建設労働力の温存
26	高知県	室戸市	食	土佐あき農協羽根園芸研究会 ナス部会	海洋深層水を使ったなす生産及びブランド化
27	高知県	馬路村	IT	馬路村農業協同組合	ゆずの市場開拓から始まった地域づくり
28	佐賀県	伊万里市	バイオマス・ リサイクル	特定非営利活動法人 伊万里はちがめプラン	「生ごみを宝に！」食資源環境と地域の活性化
29	沖縄県	名護市	食	農業生産法人(有)水耕八重岳	ゴーヤーを活かした商品開発による地域振興
30	沖縄県	南城市	食	(株)たまぐすく	沖縄の主幹作物「さとうきび」を生かした村づくり

本誌第18号で募集しました、「第3回オーライ！ニッポン大賞」「第5回むらの伝統文化顕彰」の各賞が選定されましたのでご紹介します。多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。

## 第3回オーライ！ニッポン大賞

「オーライ！ニッポン大賞」は、全国の都市と農山漁村の共生・対流に関する優れた取り組みを表彰し、もって国民への新たなライフスタイルの普及定着を図ることを目的として、オーライ！ニッポン会議（代表：養老孟司東京大学名誉教授）、（財）都市農山漁村交流活性化機構、農林水産省が主催し、毎日新聞社との共催により、平成15年度から実施しているものです。

### 【グランプリ（内閣総理大臣賞）】

●団体名：南部町(旧名川町)

●市町村名：青森県南部町

●概要

南部町名川地区のグリーン・ツーリズム活動の原点は、その言葉や概念さえ存在していなかった昭和61年に、県内一の栽培面積及び収穫を誇っていた「さくらんぼ」を地域振興の起爆剤にと実施した「さくらんぼ狩り」のイベントから始まっている。このことが農家と消費者の繋がりを生み、交流の輪が町内外に広がっていく中で、「名川型交流」という農業体験、郷土料理、地域文化を生かした交流形態を確立。平成3年度に交流の拠点施設としてオープンした農産物直売施設「名川チェリーセンター」は、平成16年度には2億9千万円の売上額となっている。また平成5年度から実施している首都圏の農業体験修学旅行の受入れは、平成8年度に近隣4町と「三戸地区観光振興協議会」を設立することで大規模校の修学旅行の対応を可能にするなど、受入体制の強化を図り、当時は1校（38人）だったのが、平成16年度は8校（旧名川町で561人）と増加している。



平成15年度からは、通年農業観光への誘客を図るために、東北新幹線八戸駅開業に合わせ、八戸・名川間無料シャトルバスの運行を行うなど、積極的に交流事業を展開している。さらに平成16年10月には、青森県との連携のもと、首都圏の中老年層と地元とのコミュニケーションを楽しんでもらうモデル事業として、パーチャルビレッジ達者村を開村し活動している。また、平成17年度からは東京の大手人材派遣会社が進める「農業インターンプロジェクト」の研修（9名）を受け入れるなど、いち早く農業体験を中心とした交流事業に着目し、活動実績20年を経てもなお、近隣町村と協力体制を取りながら積極的に取り組んでいる点が高く評価された。

### 【オーライ！ニッポン大賞】

●団体名：標津町エコ・ツーリズム交流推進協議会

●市町村名：北海道標津町

●団体名：地球緑化センター

●市町村名：東京都中央区

●団体名：越後田舎体験推進協議会

●市町村名：新潟県（広域）

●団体名：北はりま田園空間博物館

●市町村名：兵庫県西脇市

●団体名：NPO砂浜美術館

●市町村名：高知県大方町

### 【審査委員長賞】

●団体名：由仁町

●市町村名：北海道由仁町

●団体名：尾上町蔵保存利活用促進会

●市町村名：青森県平川市（旧尾上町）

●団体名：片品村農業協同組合

●市町村名：群馬県片品村

●団体名：ユニチカ労働組合

●市町村名：大阪府大阪市

●団体名：新田むらづくり運営委員会

●市町村名：鳥取県智頭町

●団体名：阿蘇グリーンストック

●市町村名：熊本県阿蘇市

### 【ライフスタイル賞】

●個人名：庄司 祐子（しょうじ ゆうこ）

●市町村名：山形県鶴岡市

●個人名：秋山 恵生（あきやま よしお）

●市町村名：長野県信濃町

●個人名：瀬古 育二・純子（せこ いくじ・すみこ）

●市町村名：岐阜県下呂市

●個人名：越智 資行（おち もとゆき）

●市町村名：愛媛県今治市

●個人名：久野 雅照（ひさの まさてる）

●市町村名：沖縄県与那国町

敬称略、オーライ！ニッポンのホームページ

<http://www.kyosei-tairyu.jp/index.html>

## 第5回むらの伝統文化顕彰

農林水産省、オーライ！ニッポン会議及び(財)都市農山漁村交流活性化機構では、農山漁村の伝統文化を愛し、その維持、継承、活用に積極的に取り組んでいる方々、農山漁村の営みや暮らしに関わる貴重な技術を今に伝えている方々、そして伝統文化を地域の活性化に生かして活動している方々を顕彰し、これからの農山漁村の魅力とその伝承活動を広めていきたいと考えています。

### ●全体の講評

今回は、芸能や神楽を始め、農山漁村の生活や生業の中で素朴に伝えられている技術や食文化、里山や棚田保全などの文化的な景観を地域の活性化に結び付けているなど、多岐にわたる領域の伝統文化が揃いました。どの応募も内容が充実しており、その活動内容は大変優れておりました。

その中には、地域の苦闘の歴史の中から生まれた「知恵」に着目し、それを地域の文化として光をあてて、子供達への継承や観光資源として活用している事例もみられました。また一度は途絶えてしまった伝統文化を地域の方々力が合わせて復活している事例が全体の三分の一もあり、都市と農山漁村の交流の資源として、また地域のコミュニティを形成する上でも、「むらの伝統文化」は重要な役割を担っていることを実感いたしました。

今年度の各賞の選考にあたっては、僅差で入賞できない事例が数多くありました。より磨きをかけて、参加の輪を広げながら再挑戦を期待しております。

### 【農林水産大臣賞】

#### ●タイトル：「里山あすけの暮らしと手仕事 保存と継承」

●応募団体名：三州足助屋敷

●市町村名：愛知県豊田市

#### ●概要

旧足助町は愛知県の北東の中山間部に位置し、塩の道『中馬街道』の宿場町・商業町として栄えた古い町並み地域と、山間の谷や小盆地に散在する多くの小集落からなっている。

過疎化とともに生活スタイルも変化したため、昔ながらの生活の価値を見直して残していこうと「生きた民俗資料館」として、昭和55年に「三州足助屋敷」が誕生した。明治時代の豪農の家をイメージし、地元材を使い昔ながらの工法で建てられ、地元大工の技術継承の場にもなった。「自分に必要なものは自分でつくる」ことを理想に掲げ、昔ながらの毎日の暮らしと、生活に必要なものをつくる手仕事を実践する場として、体験観光施設として、現在まで取り組みを続けている。

竹を割ってザルや箆を編む。ワラ草履を編む。家族の衣類に三河縞を機織り。燃料は山の雑木を焼いた炭。紙すきは農家の冬の



内職仕事であり、その紙で番傘を作る。正月をはじめ、ひな祭り、彼岸などの年中行事を、地域の高齢者の知恵と技術を積極的に取り入れて、かつての農家の暮らしと手仕事の風景が実際に再現される場となっている。

#### ●講評

三州足助屋敷が誕生して25年間、地域の高齢者の熟練した技術と知恵を生かし、この地に残る「手仕事」や昔ながらの農家の普通の暮らしを忠実に伝承しており、この様子が地域の個性的な体験型の観光資源として経済効果を生んでいる点が評価されました。豊田市との合併という中でも、里山の生き様を残していくという努力をしており、旧足助町に残る里山の風景、昔ながらの農家の手仕事のある暮らしの継承は、これから大事になってくると思われます。

### 【農村振興局長賞】

#### ●タイトル：

#### 「かやぶき民家集落を復元して里山体験の「桃源郷」に」

●応募団体名：手這坂活用研究会

●市町村名：秋田県峰浜村

#### ●タイトル：

#### 「水文化の継承」

●応募団体名：板倉町民俗研究会

●市町村名：群馬県板倉町

### 【(財)都市農山漁村交流活性化機構理事長賞】

#### ●タイトル：「豪雪地帯の伝統食文化と谷のお面さん祭り」

●応募団体名：北谷町まちづくり推進協議会

●市町村名：福井県勝山市

#### ●タイトル：「高祖寺奥の院大日堂御頭行事 大餅さん」

●応募団体名：秋鹿大日堂御頭行事保存会

●市町村名：島根県松江市

#### ●タイトル：「速水伊豆神社八朔大祭青物神輿」

●応募団体名：大字速水区

●市町村名：滋賀県湖北町

むらの伝統文化顕彰のホームページ

<http://www.kouryu.or.jp/dento/h17/index.html>

## 農村コミュニティ再生・活性化支援事業のご紹介

農村コミュニティの再生・活性化に向けては、都市から農村への定住促進、定住者の活用や地域における多様な主体の連携により、農村と地域企業との連携による新たな事業の創出など、農村の地場資源と地元人材等を活かした新たな取り組みの役割が期待されます。

しかし、こうした取組についてはノウハウや人材の不足など課題を有しているのが現状であり、行政の枠を超えて活動するNPO法人や団体等の多様な主体の参画により地域づくりを推進していくことが効果的だと考えられることから、この度、民間主導型の事業制度を創設しました。

事業の内容は、

- (1) 都市から農村への定住の促進
- (2) 地域産業との連携の推進

の2つの柱があり、NPO法人、農協、土地改良区、その他農業者の組織する団体のソフト活動を支援の対象としています。補助率は1/2です。

当事業の詳細は、各地方農政局農村計画部農村振興課もしくは本編集担当までお問い合わせ下さい。

### 農村コミュニティ再生・活性化支援事業

- 農村コミュニティの再生・活性化に向けた、NPO法人等の民間団体主導の取組を、国が直接支援するもの
- 取組の分野は、「都市から農村への定住の促進」、「地域産業との連携の推進」
- 補助率は1/2以内
- 事業実施主体は、NPO法人、農業協同組合、土地改良区、その他農業者の組織する団体、地方公共団体が出資する団体 等

#### 都市から農村への定住等の促進

- ① 定住や長期滞在の促進方策策定、定住者を活用した集落の活性化方策の検討
- ② 定住支援体制の構築（住居、職業の生活情報などの一元的な情報提供や相談を行う定住支援体制の構築等）
- ③ 定住促進活動の実施（定住希望者への意向調査・PR等）
- ④ 定住者等による地域文化活動や農ある暮らしの実施のための体制整備



#### 地域産業との連携の推進

- ① 異業種連携の推進  
農村資源を活用した地元企業の事業拡大、新分野に進出等に向けた気運の醸成、調査・検討等。
- ② 多様な主体による地域連携活動の推進  
多様な主体の連携体制の整備、地域共同活動の推進、試験的事業の実施等。
- ③ 地域産業集積に向けた企業誘致  
地域の産業集積を図るための新規立地企業の誘致等。
- ④ 地域産業マネージャー育成・誘致  
新たな産業・事業の展開につき、地域をリードして主体的に活動する人材の育成・誘致等。
- ⑤ 人材バンクの設置・運営  
ビジネスノウハウ等を有する地元人材の登録、あっせん等に対する支援等。

## 事務局からのお知らせ

- 皆様からの情報提供をお待ちしております！

「交流情報誌 季刊 新往来」は皆様からお寄せいただいた情報で構成されています。地域の自慢やイベントの案内など、全国に向けて発信したい情報がありましたら、ぜひご連絡下さい。

次号（第21号）は平成18年6月中旬の発行を予定しておりますので、記入様式に必要な事項をご記入の上、4月下旬までに各都道府県又は下記の編集・発行元までお送り下さい。記事に関連する写真・イラストがありましたら併せてお寄せ下さい。記入様式をご要望の場合は、お手数ですが下記の編集・発行元までご連絡下さい。

皆様からお寄せいただいた情報についてはできる限り掲載するよう努めておりますが、誌面スペースの関係上掲載できない場合もありますので、あらかじめご了承下さい。

- 編集後記

本年2月に疏水百選 (<http://www.inakajin.or.jp/sosui/index.html>) が選定されました。

私が住む地域にも、350年以上前に開削された農業用水があります。その脇には歩道が造られており、流れる水や季節の農作物、青々とした大きな樹々を見ながら散策することができます。時が流れ、緑が減りつつある地域において存在感を高めるこの用水は、人々に親しまれる貴重な場所となっています。



### 編集・発行

農林水産省 農村振興局 企画部 農村政策課 農村整備計画班  
〒100-8950 東京都千代田区霞が関1-2-1  
TEL:03-3502-8111(内線4619)  
FAX:03-3595-6340



- 農林水産省のホームページでは、季刊「新往来」や都市と農山漁村の共生・交流など、様々な情報を掲載しております。ぜひご覧下さい。

農林水産省 (<http://www.maff.go.jp>) → 農村→都市農村交流の総合案内 (季刊 新往来)  
(<http://www.maff.go.jp/nouson/seisaku/sinourai/index.htm>)